まち

No.5 2015年 新年度号

発 行 日: 平成27	年6	月	22	\Box
-------------	----	---	----	--------

発 行:日本大学理工学部まちづくり工学科教室

☎ 03-3259-0531(学科事務室)

発行責任者: 八藤後 猛(教室主任) 編集担当: 高村義晴

制 作:株式会社 ムーンドッグ

contents

	- 1
「新しいまちづくりの担い手 <mark>」と</mark> しての活躍を願って	2
教 <mark>室の動き ・・・・・・</mark> ・・・・・・	5
まち <mark>づくり</mark> ニュ <mark>ース</mark>	7
年間学校 <mark>行事</mark> ··· <mark>·····</mark> ···························	8
コラム〈私とまち〉 <mark>・・・・</mark> ・・・・	8

巻頭言

まず「生業」を決めてから――就職に向けて

まちづくりエ学科 就職担当 教授 横内 憲久



私の大学での教員生活は40年を過ぎました。その間、高度経済成長、2度にわたるオイルショック、バブル経済の盛衰、その後の20年にわたる長期低迷期、リーマンショックなど身をもって体験してきました。ちまたでいわれる「売り手市場」や「買い手市場」など、上品といえない用語・状況とも何度も付き合いました。景気が良ければ企業からは頭を下げられ、そうでないときはこちらから平身低頭です。それでも、ようやく企業に押し込んだ学生に、数カ月や1年そこそこで簡単に辞められると、虚無感に襲われます。もっと真剣に働くこと、そして人から給料をもらうことを考えろと言いたくなります。

学生が就職を考えるときに往々にして誤解している部分が あります。これが早期退職を促している理由のひとつでもあ ります。日本経済新聞の名物連載に、毎日同一人物が1カ月 間自分の人生を語る「私の履歴書」があります。その登場人 物のほとんどが、社会に出る寸前の学生時代に、自分の生業 (職)を決めて、それにふさわしい企業等を選んでいるので す。つまり、自分は、これで飯を喰っていくのだと「職」の 覚悟をしてから、「社」である企業等を厳選しています。こ の順番が重要なのです。取りあえず、企業等に入ってから、 そこで何ができるかを探すということもあるかもしれません が、うまくマッチする職種がなかったら、辞めるか我慢する かしかありません。この生業を決めずに企業等を選択するの が学生の誤解している部分であり、早期退職の要因と思いま す。職を定めてから、最適な企業を決めれば、理論上ミスマ ッチは少なくなるはずです。また、1つの企業を選ぶには、 当然、企業研究を行う必要があります。企業間の差は何なの か、何がその企業のウリなのかなど、企業を真剣に学ぶこと

により一層自分の生業の内容を先鋭化できるのです。

昔からいわれていますが、「就職」とは職に就くことであって、職の前に企業から決めるのは「就社」といいます。就社にこだわる人は、大企業や有名企業を目指す傾向があります。それは、大企業なら潰れないだろう、有名企業なら悪いことはしないだろうくらいの安易な理由からです。その選択は間違っているとは思いませんが、その程度の動機では合格は容易ではないでしょう。まず生業を十分検討しましょう。

去る5月28日にまちづくり工学科主催の「企業懇談会」を 開催しました。いよいよ3年生も誕生したので、企業の皆さ まにまち科を知っていただこうと、約500名にお知らせした ところ、60数社、80人を超えるご参加をいただき、当日の説 明会場は立ち見も出るほどの盛況でした。当日ご参加いた だいた職種は、役所、土木系建設会社、環境系コンサルタ ント、都市計画系コンサルタント、鉄道、デベロッパー、ゼ ネコン、ビルメンテナンスなど多種にわたりました。当日皆 さまとお話ししてとても残念なことに気がつきました。それ は、どの企業等も受験区分が土木と建築いずれかに二分され ているということです。顕著な例ですが、役所の試験区分も 相変わらず土木分野か建築分野です。これらにまちづくり分 野が加われば、人材もより豊富になるのではと思います。ま ち科が標榜する、まちの器 (建物と土木構造物等) とその中 の暮らしとのベストマッチの実現のためにも、まちづくりの 活躍できるフィールドを広げられればとさらに実感しました。

少子高齢社会、コンパクトシティなど喫緊の問題を解決に 向かわせるまちづくりのフィールドは、重要性を一層増すと 思います。あと数年後には生業としてのまちづくりが確立す る世の中になっていると確信します。

「新しいまちづくりの担い手」としての活躍を願って

まちづくりエ学科 就職担当 仲村 成貴・天野 光一・城内 博・高村 義晴・横内 憲久

まちづくり工学科では、学生の皆さんに卒業後、その希望に応じより多くの活躍の場が確保・提供されるように、と願っています。このため、昨年秋から、当学科の就職担当の教員が中心となって、実際に企業・官公庁の皆さまが、当学科に対しどのような見方をされ、何を期待・要望されるのか、個別にご意見を伺ってまいりました。

そして新年度からは、これらのご意見等をもとに、広く企業・官公庁の皆さま方に、学科が目指す人材像や習得する知識やスキル、見方に関する情報を力強く発信していくこととしています。手始めとして、多くの皆さまに知っていただくため、新たにパンフレットを作成し、500名近くの企業・官公庁さまにご送付。第二弾として、巻頭言にもあるように、実際に関係する方々に対し説明会や意見交換会(企業懇談会)を催したところです。

一方で、各方面からの当学科に対するご指摘・要望(人材育成)に応えるため、資格取得の推奨・支援や公務員養成のためのプログラム(講座)にも独自に取り組んできています。

"新しいまちづくりの担い手"が社会に輩出され活躍してくれるよう、こうした取り組みをさらに進めていく予定です。

企業・団体の採用ご担当へのパンフレット

まちづくり工学科を巣立つ学生が身に着ける7つの"できる力"、そのためのカリキュラム、そして学科が推奨する取得可能な資格等をコンパクトに案内。どのような専任教員がそれを支えるのか、教員の活動や研究分野などを含めて、顔ぶれも見ていただく。そんな「企業・団体の採用ご担当様」と副題を付けたパンフレット(A4見開き8ページ、カラー)が新たに出来上がりました。これからの企業・官公庁の皆さまへの力強い情報発信資料となります。

それだけではなく、各教員が、当学科としての具体的な 教育の達成目標をあらためて確認し、授業の改善や向上に 目を向ける契機となる効果も期待されます。

(7つの"できる力")

①調査ができる ②図面が描ける・読める ③模型表現ができる ④報告書が作成できる ⑤ファシリテーターができる ⑥ワークショップを企画・実行できる ⑦実施過程が理解できる

(学科が推奨する取得可能な資格等)

①一級建築士 ②二級建築士・木造建築士 ③技術士・ 技術士補 ④宅地建物取引士 ⑤その他(不動産鑑定士/ 衛生管理者/造園施工管理技士(1級・2級)/福祉住環 境コーディネーター/環境社会検定ほか)





企業懇談会

直接、企業・官公庁の皆さま方に、当学科の想いを訴えさせていただくため、平成27年5月28日(木)、午後6時から、駿河台校舎1号館131教室において、説明会を企画。66社、83名もの方々のご出席をいただきました。八藤後猛学科主任の挨拶に始まり、専任教員の紹介がなされ、前項のパンフットをもとに、横内憲人教授から当学科の理念や特色・特長を、想いを籠めて纏々お伝えいたしました。

引き続き同館2階のカフェテリアにおいて、懇談会を開催。お忙しいなか、ほぼ全員の皆さまのご参加を得ました。山本寛・理工学部長の挨拶の後、ご出席の皆さまから各教員が個別に温かいご声援とともに忌憚のないご意見や要望を拝聴いたしました。あらためて意を強くする一方で、新たなご注意やこれからのご示唆もいただきました。また当日、別途、簡単なメモでのご意見などもお受けいたしました。いくつかご紹介させていただきます。曲解や趣旨が相違していたりするようなことがあれば、お許し願います。いただいたご意見・要望、そして今回のつながりを、これからの就職対策にできるかぎり反映させてまいりたいと考えております。

(懇談会でのご意見・要望等)

- ▶まちづくり工学科の理念に賛同。実践を中心とした教育 面での連携・協力も考えたい。(国土交通省都市局)
- ▶新しい学科であり、新しい考え方ができる人材を期待している。ぜひ、活躍の場として行政の仕事に関心を持ってほしい。(地方公共団体)
- ▶カリキュラムを見て、どのような人材が輩出されるのか期待感を持って見ている。(建設会社)
- ▶以前から願っていた学科である。活躍してくれる人材を 期待している。(コンサルタント)
- ▶まちづくりに関連する仕事も行っており今後増えること も予想されるが、今のところはそれ以外の部分も多い。 まちづく工学科の学生が実際にどのような仕事をしたい のか知りたい。(メーカーなど)



企業・官公庁の方々への説明会

(メモ等で寄せられたご意見等)

- ▶昨今の「担い手確保」が大きく懸念されるなかで、今回のような産官学が一堂に会して行われた会は、すべての参加者にとって有意義なものになったと感じている。
- ▶まちづくりには、専門知識や企画力、構想力も必要だが、やはりコミュニケーション能力が最も大事だと思う。コミュニケーション能力が高ければ、他の能力がさほどでなくても実務でもそれなりに戦力になったりする。コミュニケーション能力を高めるような教育を期待している。
- ▶学生と企業の直接的な接点が増えるような取り組み(イベントを含め)についてもご検討をお願いしたい。
- ▶これまでのハード整備に加え住民とのキャッチボール、 デザインなどに配慮したソフト対策を含めた総合的なま ちづくりが大切。その意味でまちづくり工学科の人材に 期待したい。
- ▶建築系や土木系の資格にも対応できるよう、基礎的な専門知識は習得していてほしい。

(文責 高村 義晴)



企業・官公庁の方々への説明会



企業・官公庁の方々との懇談会



企業・官公庁の方々との懇談会

父母懇談会

平成27年6月6日(土)に、船橋校舎12号館で、学年に分かれての「まちづくり工学科の父母懇談会」が開催されました。それぞれの学年の現状報告やお願いなどのあと、個別に面談がなされました。1年生は31組、2年生は12組、そして3年生は35組のご父母の方にご参加いただきました。実際の面談では、就職を始め、学生生活・授業態度など広範な相談をお受けいたしました。

とくに3年生のご父母の皆さまに対しては、当学科の就職担当教員の方から、これからの就職に向けての心構えとして大まかの就職決定までのスケジュールを紹介したうえで、「面接重視の企業等が増加、人を見るようになってい

ている。就職先を決めるには、まず職種が第一であり、学生本人が何をやりたいか(業種)を決めないと企業等も見えてこない。そうしたうえで、早く固有名詞(企業名)を何社か決めることが重要であり、そうすることで企業の研究も的が絞りやすくなる。またできるだけ現地に行く必要がある。」そのような話をさせていただきました。

就職は、学生の皆さんにとっての一大事であり、本人の 努力は言うまでもなく、私たち教員も最大限の支援を行う つもりでおります。しかしながら、そこにはご父母の方々 のお力も欠かせないと考えております。



1年生 父母懇談会



3年生 父母懇談会

資格取得・公務員養成講座

- ・まちづくり工学科では、先にもご紹介したとおり、一級 建築士、技術士・技術士補、二級建築士・木造建築士、 宅地建物取引士などの資格の取得を推奨しています。と くに宅地建物取引士については、学科として独自の学習 プログラムを用意するとともに、技術士第一次試験につ いても、8月に対策講座を開催するなどのバックアップ を予定しています。在学中に取得可能な資格に挑戦する ことは、新しいまちづくりの担い手としての活躍の場を 大きく広げることにもなります。ひとりでも多くの合格 者が出、それが次の学年にもつながり、学科の新たな気 風が築かれていくことを切願しています。
- ・まちづくり工学科では公務員をひとつの有望な就職先と 考えており、実際に、公務員を希望する学生も少なくあ りません。公務員希望者については、それが叶うよう、 学科としても全面的にサポートしていくこととしていま す。具体的には、当学科として独自の公務員養成講座を 開催し、受験先・職種等に対するアドバイス、受験対策

の教材の提供、現役地方公務員の方との意見交換会を進 めるとともに、仲間内で一緒になって勉強できる雰囲気 づくりや場の提供を行っています。

まちづくり工学科 公務員担当 高村 義晴、後藤 浩、川島 和彦



まちづくり工学科公務員講座

1年生(まちづくり工学スタディスキルズ)

准教授 依田 光正



現在、1年生は「まちづくり工学スタディスキルズ」と して、「船橋キャンパス魅力向上プロジェクト〜船橋校舎 のキャンパス空間の魅力・問題点を客観的に明らかにする ための調査体験~ | と題した課題のグループワークに取り 組んでいます。

少人数のグループに分かれ、話し合いで各自の役割分 担を決め、「まち」としてとらえた「船橋キャンパス」を 「美しさ、楽しさ、安全・安心」の観点から評価します。 まちに関心や興味を持つ1年生が、仮想ながらも「まち」 を対象として、グループで協力しながら、テーマ設定→目 的設定→調査方法検討→調査実施→データ分析→考察→提 案(プレゼンテーション)を行います。これらを通じての ねらいは、①まちづくりの基本的プロセス理解、②客観的 に現象をとらえる視点の涵養、③説明力向上、④話し合い による課題解決能力を養う、⑤1年生(3期生)&教員の チームワークを育む、の5つです。



スタディスキルズ

授業の最終日に行われる成果発表のプレゼンテーション では、今年度の新たな取り組みとして、パワーポイントと ポスターの両方を取り入れ、開放感のある屋内空間を発表 会場として開催することを予定しています。

1年生クラス担任 高村 義晴、後藤 浩、依田 光正、牟田 聡子(補助)

2年生(オリエンテーション)

本学科では毎春、2年生を対象としたオリエンテーショ ン (まち巡り) を実施することとしており、2年目となる 本年は、専任教員により全11コースが企画され、5月9日

オリエンテーションのコース

地方のまちの"まちづくり"を体感する

長野県軽井沢町(観光地の魅力、商店街のまちなみ、商業施設開発、 観光施設のデザイン) 引率:川島和彦、落合正行 東京の近代土木遺産を訪ねる

御茶ノ水・日本橋・東京駅・日比谷公園・浅草他(近代土木遺産、 帝都復興事業、戦災復興など) 引率: 天野光一、西山孝樹

まちづくりのための治水・利水施設(ダム)

浦山ダム(荒川水系、水資源機構管理、洪水、発電、飲み水・工業 用水確保・社会基盤施設) 引率:後藤 浩

五感で楽しむ初夏の神楽坂まち歩き

JR 飯田橋駅界隈・神楽坂界隈(賑わい、歴史・文化、まちなみ保全・形成、跡地、再開発) 引率:阿部貴弘

最新のユニバーサルデザイン 東京国際空港国際線ターミナル 羽田空港(ユニバーサルデザイン、車いす、障がい者、人間工学) 引率:依田光正、青木和夫

東京のウォーターフロントのまちづくり巡り 天王洲地区、ウォーターライン、豊洲地区、台場地区(川下り、吾 妻橋スーパー堤防、浅草) 引率:横内憲久

「大商業施設の安全」、「企業の社会貢献」を考える

ナ川崎プラザ・ 東芝未来科学館(大商業施設、安全、企業の 社会貢献) 引率:城内 博 海の上からまち巡り「東京新名所・発掘クルーズ」

東京湾クルーズ(海から見る TDL&TDS、ユニークな海岸整備、首

都高老朽化現場、海上歴史遺産など) 引率:岡田智秀 大橋ジャンクションとまちづくりの一体開発 入間ファンフェンとなって、かければ、東京都自黒区池尻大橋(道路、都市開発・まちづくりの一体整備、大都市の付加価値空間・コンセプト) 引率:高村義晴

秋葉原の歴史と文化探訪

万世橋から秋葉原界隈(変容と景観、繁栄と衰退、世界への文化の発信、駅と再開発) 引率: 八藤後 猛、牟田聡子

小江戸川越まちあるき「名所+α巡り」

埼玉県川越市(蔵造り、新旧のまちなみ、防災) 引率:仲村成貴





(土)か16日(土)のいずれかに実施されました。両日と もに晴れ間が垣間見える天候の中、学生たちは引率教員の 解説に耳を傾けながら、まち歩きを繰り広げました。コー スによってはそのまちならではの食事を楽しんだり、普段 では絶対に体験できないビュースポットを満喫したりしま した。こうした体験を通じて、教員と学生間および学生相 互の親睦が深められたとともに、これまで漠然と見ていた "まち"というフィールドを、専門的な視点で観察した思 い出深い1日になったようです。

2年生クラス担任 岡田 智秀、仲村 成貴、西山 孝樹(補助)























3年生(ゼミナール)

准教授 川島 和彦



本学科では、3年生のゼミナールから4年生の卒業研究までの2年間、研究室に所属して学修することとしています。まちづくりは多岐にわたる専門領域から成り立っており、学生の関心の対象もさまざまです。そこで、自らの関心に基づき、より専門的な知識を学ぶ3年次のゼミナールを通じて、進路を考え、動き出すきっかけにすることも意図しています。各研究室では、すでに各教員の指導のもと、特色あるゼミが展開されています。

また、選択科目で「インターンシップ」を開講しています。前期中は各業界の現状やインターンシップ受け入れ先の講義などを行い、夏季休暇中に各企業・機関において実習を行います。多くの地方自治体、建設業、都市計画コンサルタント等からご協力いただいており、学生諸君には積極的な就業体験を期待しています。

3年生クラス担任 城内博、川島和彦、落合正行(補助)

ゼミナール紹介

指導教員	目指す能力(知識・スキル・見方)	ゼミにおける活動の方針
教 授 青木 和夫	健康で生きがいのあるまちづくりの理論と実際 を学び、実践的な施策を考える力を養う。	まちづくりにおける健康の重要性を認識し、調査に必要な健康度の測定や、人間のさまざまな活動の計測方法を学ぶ。また健康増進のための環境やシステムなどについて意見交換を行う。
教 授 天野 光一	景観工学・観光計画の分野から、「美しい国土、 住みやすいまちをつくる」ための基礎的な知識 を習得する。	現地調査や専門書等から社会の要望等を理解し、具体的な課題を自己で見出す。さらに、学生自身が計画する発表会では討議を行い、自らの考えが一定の結論に至るまでのプロセスを学ぶ。
教 授 岡田智秀		市町村や小学校あるいは東北被災地の住民組織等とまちづくりプロジェクトを展開し、そのまちの将来像を築くためのワークショップを行ったり、まちの魅力を"見える化"するための「まち歩きマップ制作」「パンフレット制作」「かかし作り」等を実施。また、まちの診断結果をゼミ論文としてまとめ、成果をプレゼンする。
教 授 後藤 浩	河川および海岸沿岸域で起きる現象を理解し、 その知識を利用して安全・安心なまちを構築で きる力を養う。	水由来の災害、水由来の恩恵について理解を深め、未解決のテーマを設定し検討を行う。成果をもとに、書く(文章)・話す(プレゼン)を用い人にわかりやすく伝えることの本質を学ぶ。
教 授 城内 博	ひとに起因するさまざまな問題を理解し、その 解決に向けて行動できる能力を養う。	名著精読、コミュニケーション能力の開発、調査等ゼミの活動を通じて継続・積み重ねの重要性を学ぶ。卒業論文作成の準備を行う。
教 授 高村 義晴	現場での実践にふれ、提案を経験することで、 実践型のまちづくり力を習得する。	市役所、国の協力を得て、見つけ出した「まちづくり題材」をもとに、資料収集、ヒアリングを行い、企画・提案にまとめ、個々に、市役所等に対しプレゼンテーション・意見交換を行う。
教 授 八藤後 猛		少子高齢化による影響を、高齢者、障がい者、子どもや子育て世代、貧困問題などの 生活者の視点から探求し、現状のまちづくりや社会制度において、自らその問題点を 認識する。そのうえでまちづくり工学の視点から、これらの問題点を解決する技術 的、制度的手法を学ぶために、課題設定、ワークショップ、調査研究を行う。
教 授 横内 憲久	自らまちづくりのテーマを探り、それを完遂するための企画・調査・解析等を提案・実行する。	まちづくりに係る喫緊の課題に対して、定められた期間に回答を導き出し、それが課題に対して答えとなっているか、また社会的有用性を示しているかを検証する。
准教授 阿部 貴弘	「歴史」「景観」の観点から、本質的な"まち" の特性、魅力、課題を見抜く力を養う。	文献の輪読をとおして、まちづくりに必要な基礎力・教養力を養う。さらに、フィールドワークをとおして、「歴史」「景観」の観点からまちを調査・分析・評価する実践力を養う。
准教授 川島 和彦	建築物が建ち並ぶ市街地の整備にかかる各プレイヤーの存在やそれぞれの取り組みを理解し、何が問題なのかを考える力を養う。	多様なプレイヤーの協力を得て、多くの見学会や議論を通じて、各自の問題意識を明確にする。また、卒業研究を行っていくための基礎知識や技術を学ぶ。
准教授 仲村 成貴	構造物の性能を把握する力を養い、地震防災に 関する基礎的な知識を習得する。	地震防災もしくは社会基盤構造物に関するテーマについて、文献調査、現地調査、実験などで得られたデータを処理して報告書にまとめ、プレゼンテーションする。
准教授 依田 光正	福祉テクノロジーを活用して、「まち」で生活するさまざまな「ひと」を支える方法を習得する。	社会・福祉資源や福祉住環境によって「まち」で生活する「高齢者・障がい者」を支える仕組みの知識習得や調査、ならびに福祉テクノロジーの基礎技術習得を行う。

昇格・新任教員紹介



教授 後藤 浩

私は、大学院生〜助手には河川を対象として、その後、湖沼に寄り道しながら河川を下って、現在、海に出て防災関連の話題を対象として研究を行っております。今年で日本大学理工学部に奉職してから21年目がたちました。立ち止まり周りに目を向けると、小職の得意とする河川・海岸沿岸域周辺には、成熟した「まち」が広がり、そこに不具合が生じていることに気付かされます。今度は、逆に、少し陸に上がって沿岸を眺めるのもいいかと考える今日このごろです。おごることなく、私自身の教育と研究のレベル向上と「まち」の学生たちのスキルアップのためにさらに頑張ろうと思う次第です。



助手 牟田 聡子

子どもにとって楽しいまちとは、それが私の研究の原点です。学生時代は子どもと一緒にワークショップに明け暮れ、子どもがどんなことをするとわくわくするのかを考えていました。研究では小児医療における小児患者家族の環境整備に関する研究を行い、子どもとその家族にとってよりよい環境は何か、という研究をしてきました。卒業後、妊娠、出産を経験し、子育てをしていく中で現代社会の問題に直面し、そこから今のまちの課題に気がつきました。子どもや家族の目線で、その問題をどうわくわくする楽しいものに変えていけるのか、学生のみなさんと一緒に楽しみながら考えていきたいと思います。



病んだ地域を医する名手

教授 高村 義晴



私たちまちづくり工学科は、病んだ地域、機能不全に陥っている地域を医する名手であってほしい。

これまで30数年、市街地整備・都市開発、都市インフラの整備など、都市・地域の整備に携わってきました。そしてこの間、ある違和感を抱いてきました。それは、現下の市街地整備・都市整備が、自分の得意分野・専門領域からしか、地域に向き合わず、深刻化する都市やまちの問題、時代の要請から目を逸らしがちに見えてしかないことです。復興についていえば、もはや壊れたものを元どおりにしたり、宅地を安全にしたりしても、それだけでは地域は生き長らえられません。

このような想いに背中を衝かれ、ここ3年、岩手 三陸沿岸の「被災地の生業づくりとまちづくり」に 挑んでいます。いずれこの国では、激甚な自然現象 は避けられない。必ずしや灰や塵と化した凄惨な郷 土を、復興・創生しなければならない局面は繰り返 す。そしてその要所は、単に復興させるのではなく 持続可能なまちとして創生させていくことにありま す。

問題を単純化し、予算確保の問題だけにすり替えてはなりません。地域住民の方のせいにするのも、 承服しがたい。実は予算以上に足りないのは、問題に立ち向かう知恵なり知識体系等です。果敢に一歩 を踏みだし、新たな挑戦を行う精神です。これまで 岩手三陸が、繰り返される大津波の被害から不死 鳥のように甦ってきたのは、一心に地域の創生を願い、地域を生き長らえさせようとする知恵が累々と 積み重ねられ研ぎ澄まされてきたからに他なりません。これまでの空間整備を基軸としながらも、そこに暮らし、生業、楽しみ、誇り・絆といった「地域維持に必要なもの」に目を向けなければ、もっといえば、これらを一体的にとらえていかなければ、やはり生き長らえる地域はつくっていけない。それを為すには、あくまでも現実を見るリアリズムであり、一心にそれに真正面から応えていこうとする精神です。これこそが、「新しいまちづくりの精神」でなければなりません。従来の見方に囚われていては、問題の実相はいつまでも見えてきません。

そしてそのような「新しいまちづくりの担い手」 を育成していくことこ

そが、もっといえば、 当学科自体がそうして 成長していくことこそ が、当学科に期待され ているものであり、時 代が欲する使命だと思 われてなりません。



column 〈私とまち〉

まちづくり専門家 への期待



私の専門分野は医学、化学、人間工学などです。まちづくり工学科ではまちのひと(住民や労働者)の安全や健康維持に関する科目を担当しています。「まち」は「ひと」です。まち

の問題はひとの問題でもあり、これらはひとが解決していくしかありません。ここでは私が期待するこれからの「まちの安全や健康の専門家」について述べます。

現在エボラ出血熱が西アフリカ諸国で流行し、感染者数は2.5万人を超えたといわれ、世界的な流行(パンデミック)を防ぐために世界各国でその対策が急務となっています。この流行を医療の専門家だけでは防ぐことができないことは、それが拡大し続けていることから明らかです。また東日本大震災の際に、医療関係者だけでは被災患者に対応しきれなかったことも明らかになりました。

日本ではアスベストによる肺がんや悪性中皮腫による死亡者が1.5万人を超えました。今後30年で10万人まで増大すると予想されています。アスベストはこれまでに1千万トンも輸入され、そのほとんどは建材として使用されました。これの犠牲者は関連業種の労働者のみならず工場の近隣住民にまで及んでいます。しかし残念ながら行政、建築、医療の専門家はこの災禍を防ぐことができませんでした。

またわが国の労働災害で最も多い疾病は腰痛ですが、この傾向は数十年変わらず、その社会的な損失は莫大です。 労働者の腰痛はその歴史が古く、専門家の間では解決方法 もわかっていますが、対策のノウハウが職場で活用される ことは稀有でした。

さて現在、それぞれの分野の専門家にまかされてきたこ

れまでの災害対策への反省も含めて、今後の災害対策が真 剣に検討され始めています。この災害対策を進めるうえで 重要なポイントが2つあります。ひとつはこれを総合的に 進めること、もうひとつはまちのひとも情報共有し参加す ることです。例えば、感染症では、感染防止に関する知識 のまちのひとへの周知とそれに基づいた彼らの行動が予防 の成否をにぎることから、情報の周知システムの構築が模 索されています。災害時の緊急時対応として、まちのひと が救急医療を必要とする患者の分類を行い治療の優先順位 を決める(トリアージ)訓練を受けるなどの対策が始めら れています。また労働者が健康を維持するためには、彼ら 自身が職場の危険有害なものを認識しそれに基づいた行動 をすることが重要になることから、職場での情報活用の専 門家が求められています。しかし以上のような災害対策に ついて横断的、総合的に理解し、まちとしての災害防止に 向けて先導的に提言し行動できる専門家の育成はなされて きませんでした。

まちづくり工学科では、ある分野の専門家だけでは解決が困難な上記のようなまちの問題について取り組むことができる専門家を育成するためのカリキュラムを用意しています。例えば、上下水道については土木工学、建築学からのハード面はもちろんですが、さらにこれらが感染症対策として発達してきた経緯、意義、さらに関連の法制度等も勉強できるようになっています。これは大規模災害やパンデミック等が起きた際に、広い視野で状況を判断し問題を解決する能力を持つということです。今後、まちでは世界的な問題とも連動して想像もしていなかったさまざまなことが起こると思われます。まちづくり工学科の卒業生がまちづくりの専門家として、まちのため、人類のために活躍することを期待しています。

年間学校行事

6月

● 付属高校生のためのオープンカレッジ

父母懇談会

前期補講日 駿河台入試フォーラム 前期授業終了 前期定期試験

8月•

夏季休暇 オーブンキャンパス 夏季集中授業 地方父母懇談会 前期追試験 9月 10月 後期ガイダンス 後期授業開始

創立記念日(休校) 学部祭

理工学部英語弁論大会 船橋キャンパスウォッチング

学術講演会 後期補講日 冬季休暇 1月

後期授業終了 後期定期試験

2月 • 1

後期追試験 卒業研究発表会 修士論文審査会

3月

卒業発表 修了発表 卒業式



学科創設から3年目を迎え、学生の皆さんに、社会に出てからの活躍の場をいかに確保・提供していくかが、新たに課題となってきています。 今号は、そのことへの学科としての対応を委細にお伝えできるよう、努めたつもりです。が、結果として、発行が若干、遅れましたことをお詫び申し上げます。学生の皆さんの将来の活躍の場については、この5月の企業懇談会をとおし、一定の手ごたえを感じたところですが、企業・官公庁の皆さま方をはじめ、さらなるご意見・要望をいただければ幸いです。 (義)